

妊娠と薬情報センターから見る妊婦診療

国立成育医療研究センター
周産期・母性診療センター(母性内科)
妊娠と薬情報センター
村島温子

- ***A sound baby in a sound maternity***

健やかな子どもは健やかな母性に宿る

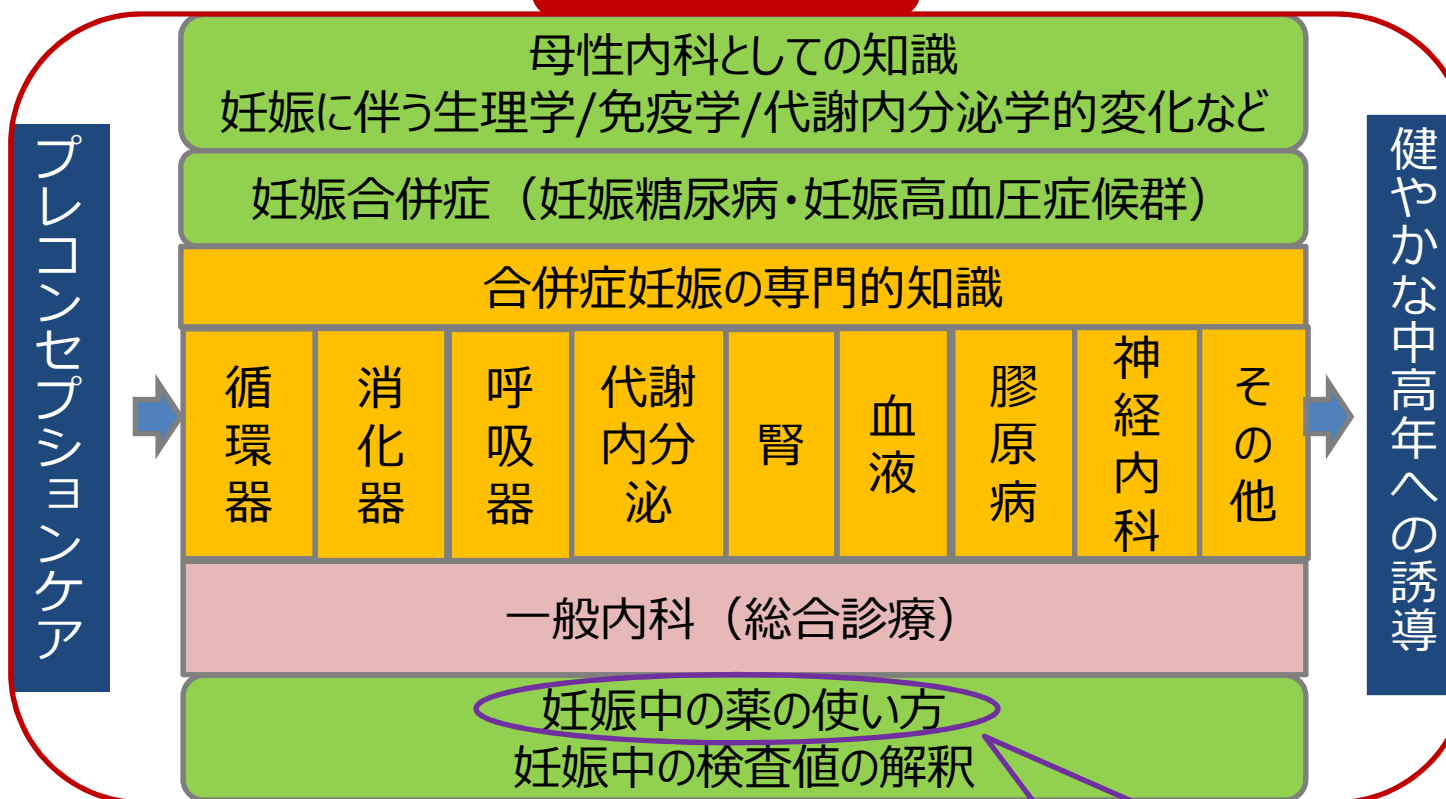


- 母体の管理において、産科以外のサポートが必要な状況も少なくない

母性内科からみる妊婦診療とは？

母性内科

母性内科学会
プロバイダーコース



妊娠と薬情報センター研修会
保険薬局薬剤師向け研修会

実際の医療現場

頭痛といっても原因も色々あるから、内科に診てもらって！



妊婦さんの診察なれていないし、薬を処方して赤ちゃんに何かあっても、



なぜ妊娠中の処方が困難か？

-医師の立場-



リスクを負いたくない



自信がない



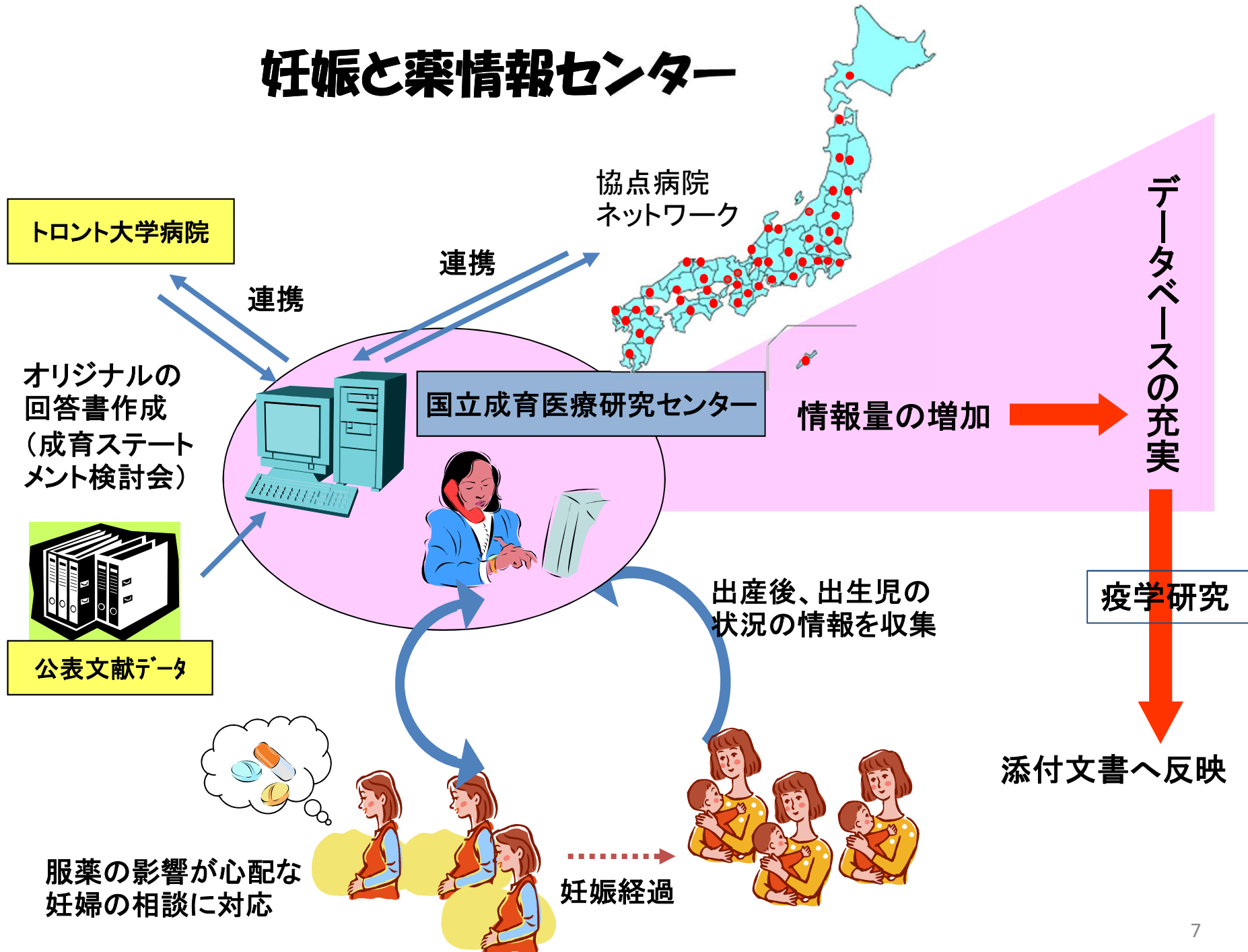
忙しくて、いちいち調べて
られない

妊娠中の薬使用における問題

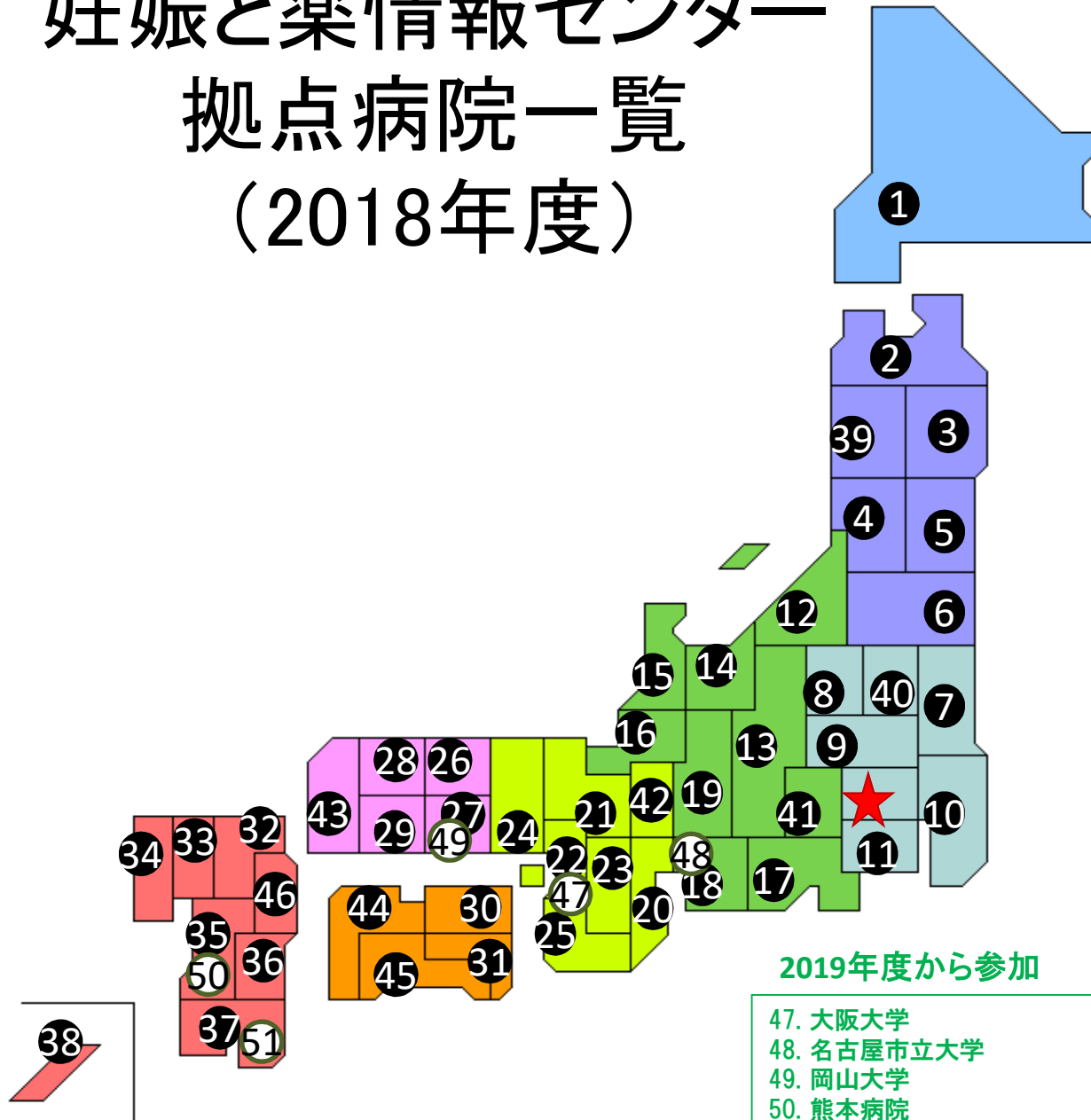
-患者さんの立場-

- 慢性疾患を持つ女性
 - ⇒疾患管理のために必要な薬剤を中止してしまう
 - ⇒妊娠を先延ばしにになってしまう
- たまたま薬を飲んでから妊娠が判明した場合
 - ⇒人工中絶をしてしまう例が少なくない

妊娠と薬情報センター



妊娠と薬情報センター 拠点病院一覧 (2018年度)



★ 成育医療研究センター

1. 北海道大学病院
2. 弘前大学医学部附属病院
3. 岩手医科大学附属病院
4. 山形大学医学部附属病院
5. 東北大学病院
6. 福島県立医科大学附属病院
7. 筑波大学附属病院
8. 前橋赤十字病院
9. 埼玉医科大学病院
10. 千葉大学医学部附属病院
11. 横浜市立大学附属病院
12. 新潟大学医歯学総合病院
13. 信州大学医学部附属病院
14. 富山大学附属病院
15. 金沢医療センター
16. 福井大学医学部附属病院
17. 浜松医科大学医学部附属病院
18. 名古屋第一赤十字病院
19. 長良医療センター
20. 三重大学医学部附属病院
21. 京都府立医科大学附属病院
22. 大阪府立母子保健総合医療センター
23. 奈良県立医科大学附属病院
24. 神戸大学医学部附属病院
25. 日本赤十字社和歌山医療センター
26. 鳥取大学医学部附属病院
27. 岡山医療センター
28. 島根大学医学部附属病院
29. 広島大学病院
30. 四国こどもとおとなの医療センター
31. 徳島大学病院
32. 九州大学病院
33. 佐賀大学医学部附属病院
34. 長崎大学病院
35. 熊本赤十字病院
36. 宮崎大学医学部附属病院
37. 鹿児島市立病院
38. 沖縄県立中部病院
39. 秋田赤十字病院
40. 済生会宇都宮病院
41. 山梨県立中央病院
42. 滋賀医科大学医学部附属病院
43. 山口大学医学部附属病院
44. 愛媛大学医学部附属病院
45. 高知大学医学部附属病院
46. 大分大学医学部附属病院

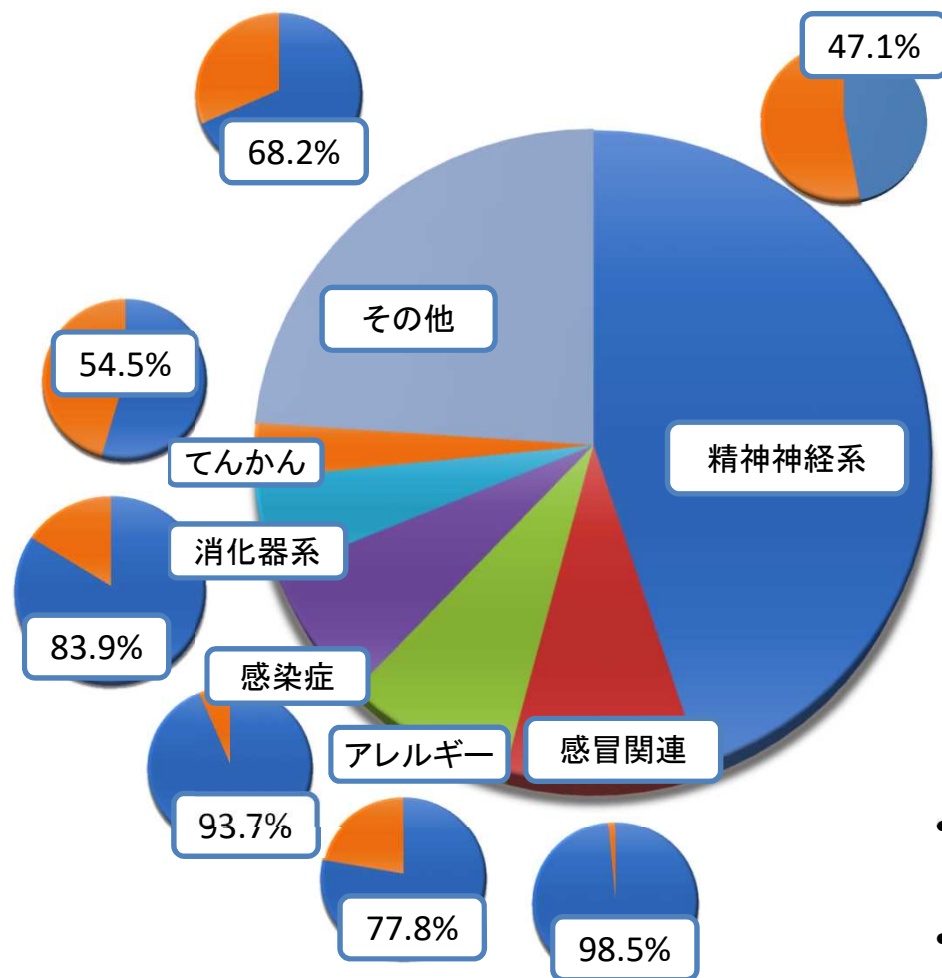
2019年度から参加

47. 大阪大学
48. 名古屋市立大学
49. 岡山大学
50. 熊本病院
51. 鹿児島大学

ミッション

- 相談業務（拠点病院全体で約12000件/年）
- 相談症例をもとにしたエビデンス創出
- 登録調査によるエビデンス創出
- 乳汁中の薬物濃度測定
- 啓発・教育・研究
 - 各学会の妊娠ガイドラインへの参加
 - 講演・執筆
 - 研究活動
 - 研修会・フォーラム

相談薬剤の内訳と相談時の妊娠状態



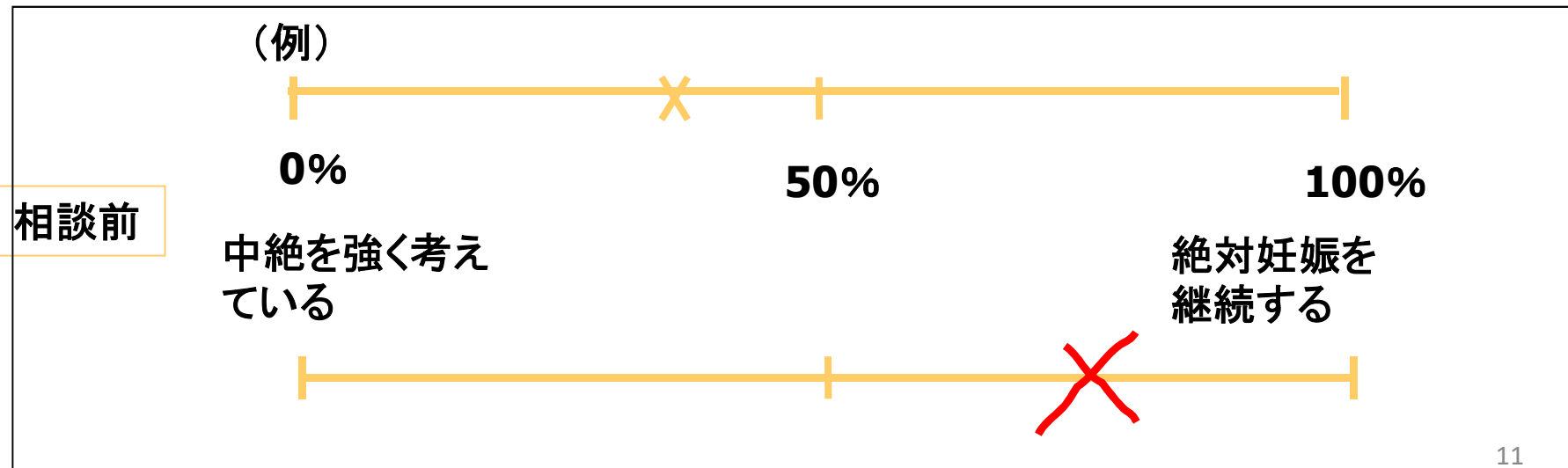
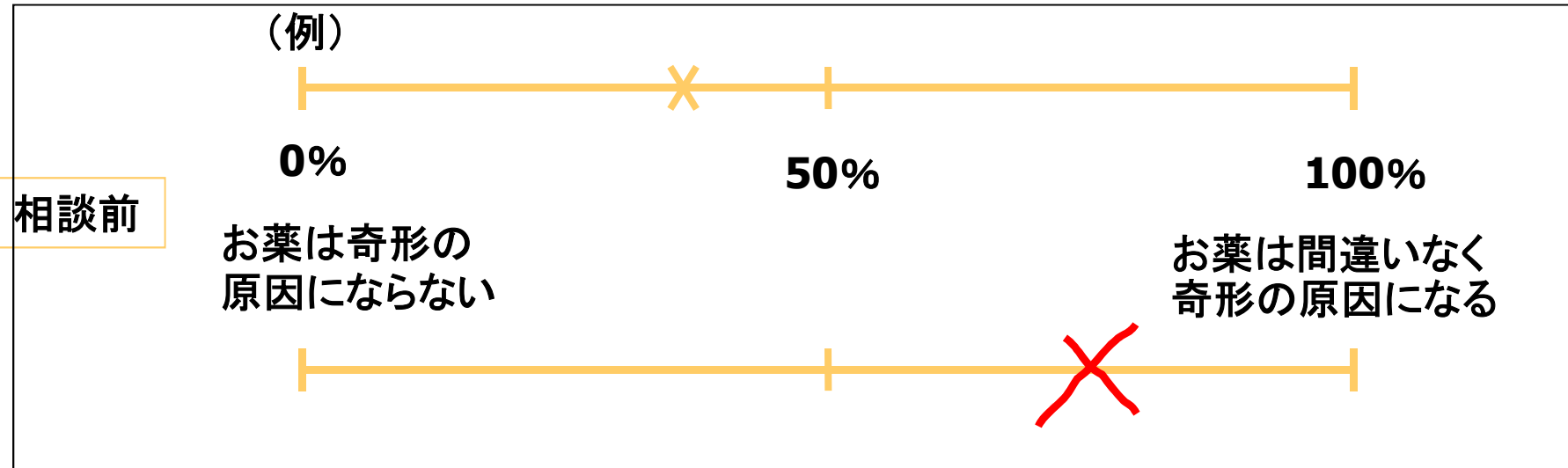
円グラフは、相談薬剤の内訳

精神神経系薬剤を除くと急性期疾患に罹患した妊婦さんからの相談が多い

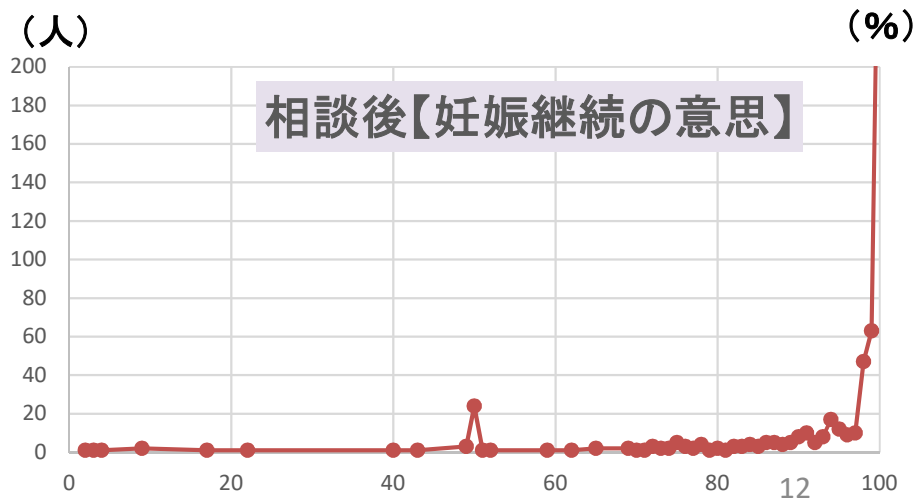
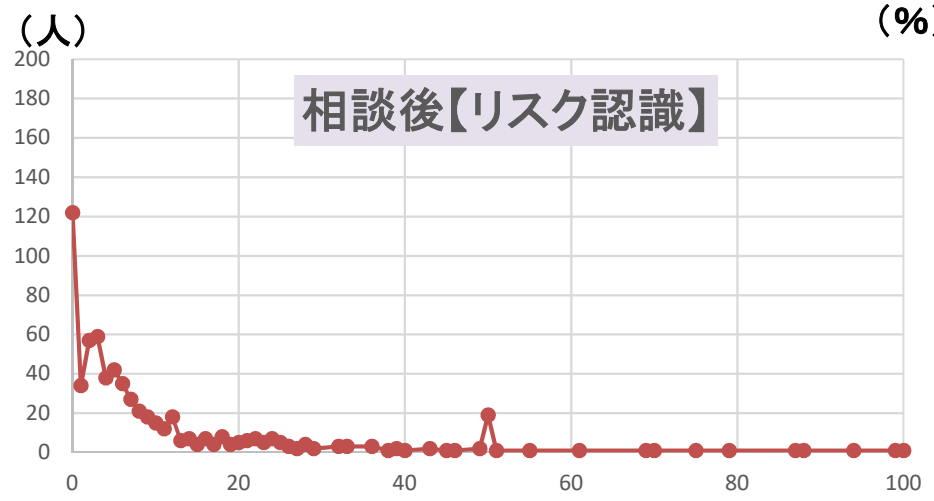
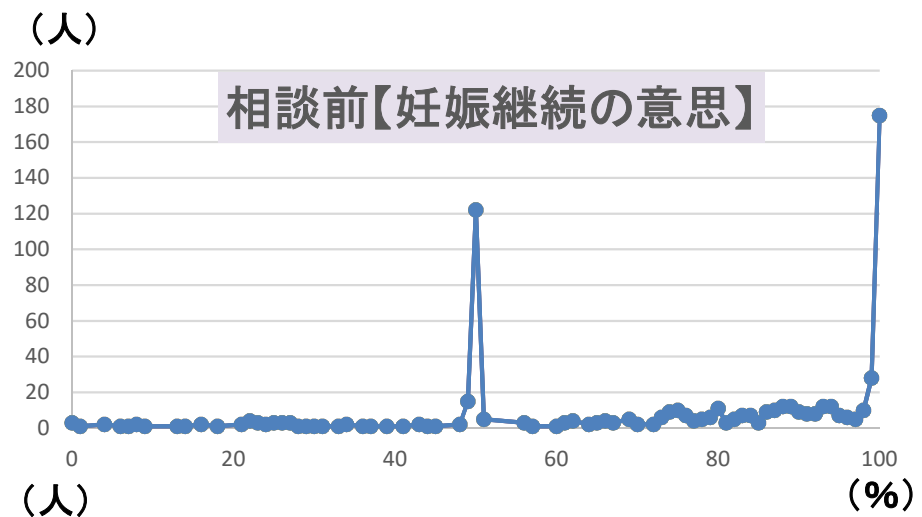
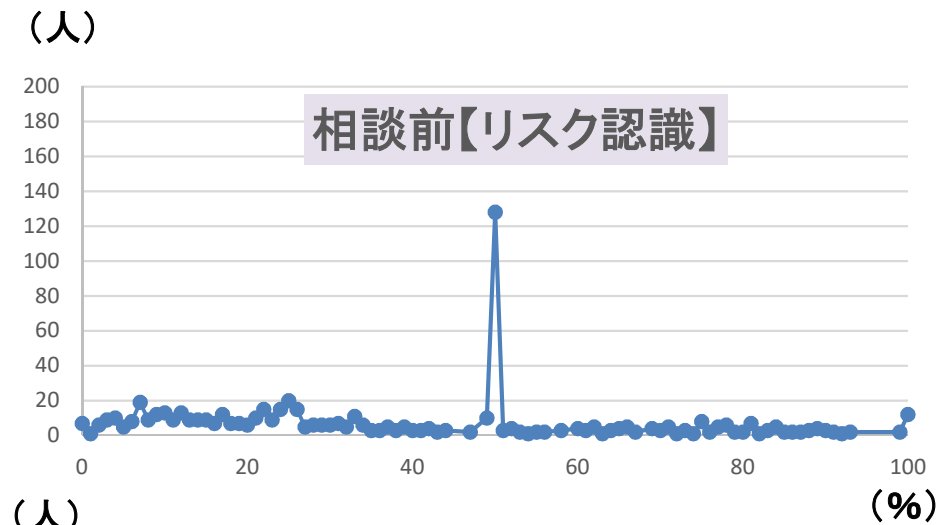
各小円グラフは、妊娠中の相談の割合

- 感冒薬関連や感染症などの相談者の90%以上が妊娠中の相談であった
- 精神神経系薬剤に関する相談など慢性疾患に関する相談では、妊娠率は50%程度であった

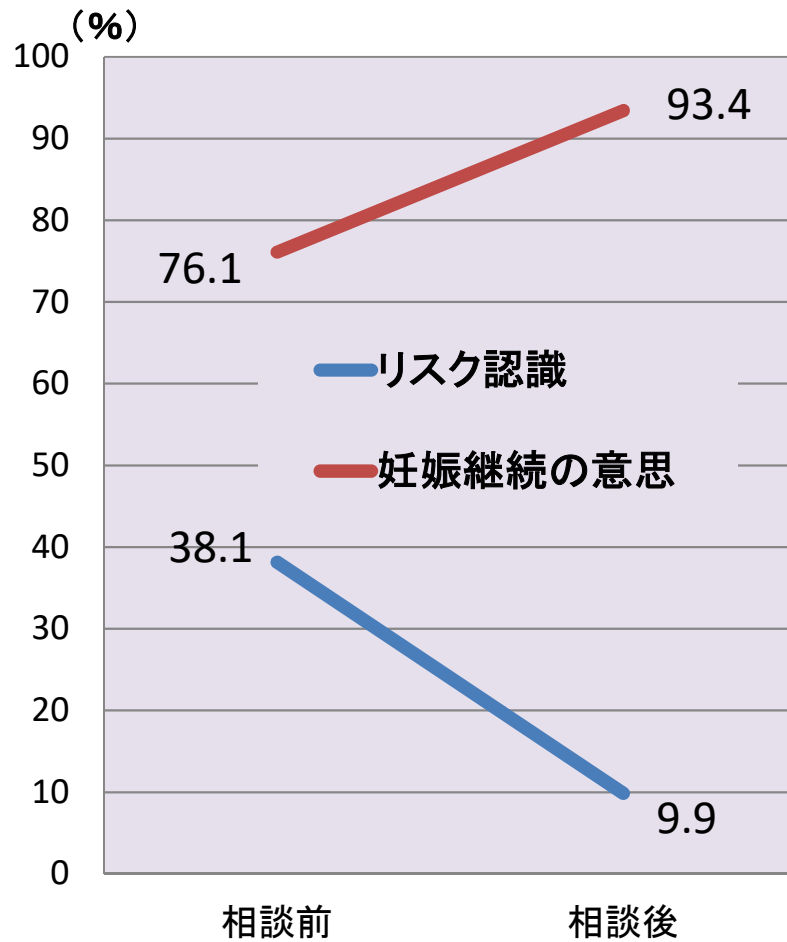
Visual Analog Scaleを用いて、リスクの認識と 妊娠継続の意思を相談前後で測定



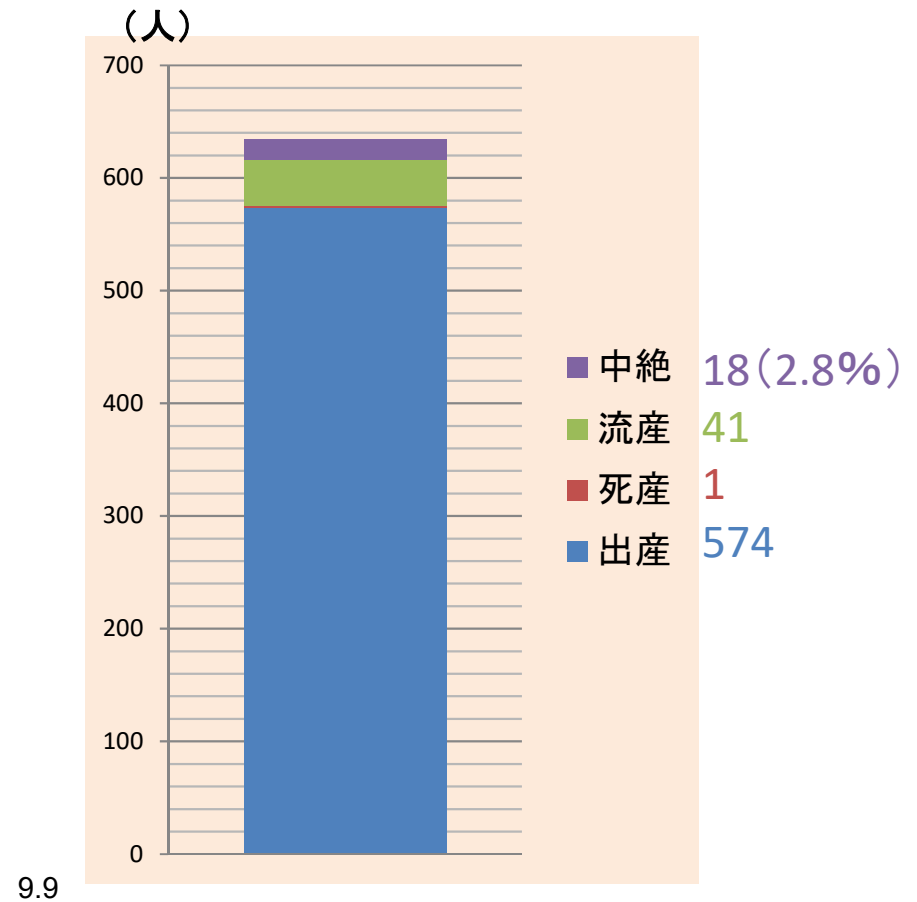
対象: 成育医療研究センターの妊娠と薬外来の(相談)受診者 634名
 方法: リスクの認識と妊娠継続の意思をVisual Analog Scale(VAS)で測定
 それらが相談前後でどう変化したか評価した



平均値の変化



実際の妊娠転帰

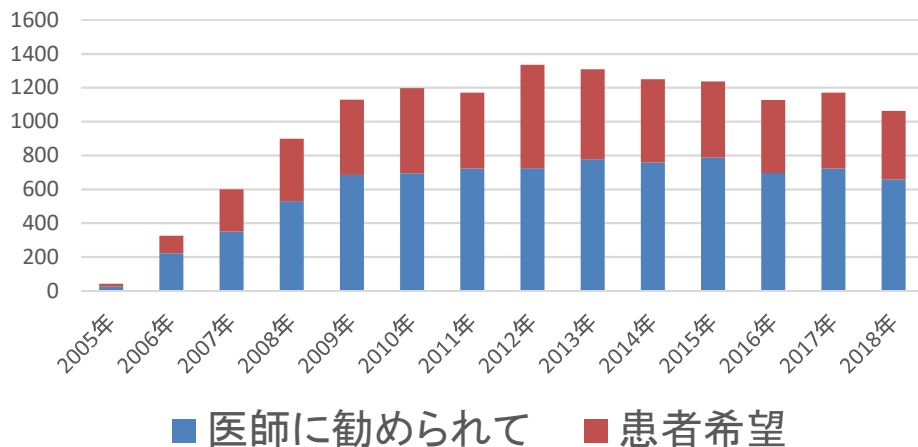


相談によりリスク認識が軽減し、妊娠継続につながった

Yakuwa-n. et al: Perception of pregnant Japanese women regarding the teratogenic risk of medication exposure during pregnancy and the effect of counseling through the Japan drug information institute in pregnancy. *Reprod Toxicol* 79: 66-71, 2018

妊娠と薬情報センターと紹介医の関わり

相談数ならびにきっかけの推移

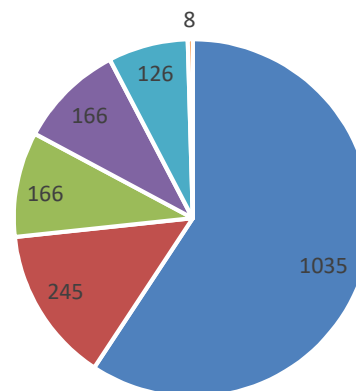


- ・年間1200件前後で推移している
- ・約6割は主治医からの勧めである
その割合はずっと変わらない

- ・ 認知度を上げる
- ・ 申し込みのハードルを下げる

紹介元の医療施設の紹介回数の分布

(2005～2018年まで2210施設から紹介を受けた)



全国に約10万ある一般病院と一般診療所の数からみると紹介施設数は少ないが、50回以上紹介した施設もある
⇒妊婦診療に対する積極性の差か？
需要の差か？認知の差か？

■ 1 ■ 2 ■ 3～4 ■ 5～9 ■ 10～49 ■ 50～ (回)¹⁴

当該領域の現状と課題

妊婦さんの診療に前向きな医師が少なくない:その根拠は？

- 母性内科プロバイダーコース(産科領域以外で、妊婦さんを診療するスキルを身に着ける)を2017年度から3回施行. 参加希望者(内科医・総合診療医・産科医)が多く、すぐに定員を充足する状態
- 医師会や学会などで「妊娠と薬」に関する講演を行うと満員盛況となる

医師による妊産婦の診療を支援する取組みが始まっているが、これらの取組みをより推進していくことが必要